

## 第27回 安全管理の最新動向講習会

### プログラム

|             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|-------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ●5月15日(水)   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 13:30～15:00 | <p>「化学産業のリスクベース安全とその方策」</p> <p>有限会社 システム安全研究所 所長 高木伸夫 氏</p> <p>プロセスプラントの安全確保にあたり我が国では絶対安全の考えが長く続いてきたが、欧米においてはリスクベース安全の考え方が浸透し、規制のみならず民間においても各種のリスク評価手法が開発され、運用されてきた。ここでは、欧米における重大事故とリスクベースに基づいた各種手法や化学産業における安全確保にあたっての方策を概観するとともに、危険源特定にあたり広く活用されているHAZOPならびにリスク低減にあたって広まりつつあるLOPAについても紹介する。</p>                                                                                                                                                           |
| 15:15～16:45 | <p>「鉄道の安全とヒューマンファクター」</p> <p>JR東日本研究開発センター 安全研究所 所長 楠神 健 氏</p> <p>鉄道の安全性向上に係わる最近のヒューマンファクター研究について紹介する。具体的には、ヒューマンエラーに起因するインシデントの分析法である当社版『4M4E分析法』、現場の安全に役立つ情報のデータバンクおよびその発信を担う『安全のポータルサイト』、東日本大震災における避難誘導の分析およびそれに基づく臨機応変な対応能力を高めるための『異常時イメージトレーニング法』などについて紹介する。</p>                                                                                                                                                                                      |
| 17:00～18:00 | 親 睦 会                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| ●5月16日(木)   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 9:15～10:45  | <p>「事故防止のための安全文化の創造と実践」</p> <p>慶應義塾大学 システムデザインマネジメント 研究科 教授 高野 研一 氏</p> <p>近年、事故防止を確実に進めるには、個人・職場・組織のすべてのステージで安全に対する価値共有を土台とした安全文化の醸成が必要とされている。ここでは、安全文化の概念の整理と位置づけ、特に、積極関与(コミットメント)、動機付け(モチベーション)、相互理解(コミュニケーション)、危険認識(アウェアネス)について解説し、それらを実践するための具体的方策について述べる。</p>                                                                                                                                                                                        |
| 11:00～12:30 | <p>「建設現場の安全管理への取組みに関する活動事例」</p> <p>鹿島建設株式会社 土木管理本部 土木工務部 安全推進部長 須藤 英明 氏</p> <p>建設業は国土整備の根幹を担う産業分野の一つである。戦後の復興期から高度経済成長期にかけて建設された構造物の多く、すなわちダム・発電所・上下水道・新幹線・高速道路・高層ビル等は、今日の社会の発展と利便性向上に大きく貢献してきたことに疑いの余地はない。そして近年、こうした大型構造物の維持補修や更新の必要性も高まり、地球の自然にも優しい円熟した社会資本施設の整備が、少子高齢化とも相俟ってますます大切な時代を迎えている。しかし、このような情勢の下で、建設業を取り巻く環境、とりわけ「仕事の安全」には、他産業に比べて多くのリスクが顕在的あるいは潜在的に存在している。そこで、ここでは、こうした建設工事のリスクを少しでも回避するための現場における安全管理実務の工夫や努力について、建設業の観点から、いくつかの事例を紹介したい。</p> |
| 12:30～13:30 | 休 憩                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 13:30～15:00 | <p>「最近の化学プラントの事故から学ぶ安全管理のポイント」</p> <p>東京農工大学工学府 産業技術専攻 教授 中村 昌允 氏</p> <p>2011年より、3件の化学プラントの爆発火災事故が起きた。それぞれの事故の技術的原因は異なるが、共通する背景要因がある。いずれの事故も定常運転ではなく、緊急事態、非定常操作の実施過程で発生している。背景要因を、運転管理、設備管理、変更管理の観点から検討するとともに、緊急時対応、ならびに、教育訓練の課題を提言する。</p>                                                                                                                                                                                                                 |
| 15:15～16:45 | <p>「航空会社における安全管理システムの実態と今後の課題」</p> <p>全日本空輸株式会社 総合安全推進室 室長 田中龍郎 氏</p> <p>ANAにおいては1971年7月の雫石事故以来41年間、乗客死亡事故を起こしていない。しかしながら事故の芽となりうる不安全事象は依然として発生しており、これらのリスクを低減させるしくみとして安全管理システム(SMS)を導入し、「今日の安全が明日の安全を保証するものではない」との考えのもと安全推進活動を行ってきた。ANAおよび航空界における、リスクマネジメントや安全に関する教育・啓発を中心としたSMSの最新の状況を紹介するとともに、欧米の動向などから見える我が国のSMSの課題について考える。</p>                                                                                                                        |